

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立

小課題名：花木鉢物の新品種育成と栽培技術の確立

細目課題：花木鉢物の新商材の開発

担当者名：窪田浩一、加藤成二、雨宮圭一、外川高雄、渡辺 淳

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|---|
| 1 研究目標の達成度 | 5 / 5 | 県のオリジナル品目の開発やヒメノボタンの早期開花法の確立などの成果を得た。また、3品目ごとに成果情報を出しており達成度は高い。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 4 / 5 | 市場ニーズの高い時期に安定出荷する栽培技術を確立し、普及性は高い。また、ピラミッドアジサイでは現地展示圃で高い評価を受け、ヒメノボタンの春出荷、クランベリーの無加温夏秋取り等で普及が期待される。 |
| 3 研究の発展性 | 5 / 5 | 実生苗株を培養中で母株供給中であり、独自ブランドへの発展性が期待される。新品種の開発と種苗の供給が期待される。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 4 / 5 | 妥当である。 |
| 総合評価 | 5 / 5 | 当初の期待以上の成果が上がったと判断される。普及部との連携の中で講演会等を行い、新商材（ピラミッドアジサイ、ヒメノボタン、クランベリー）の普及を図っているため、今後一層の期待ができる。品種登録など市場戦略を考えて推進されたい。栽培農家の収入も安定し、栽培品目の柱の一つになりえると思われる。 |

「注」 評価点の目安

| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|----|----|------|----|------|----|
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

得られた成果をもとに普及計画に組み込むとともに、農家の個別経営に適合するよう普及組織と連携して迅速な技術の普及を目指す。ピラミッドアジサイについては有望系統を選抜し、品種登録に向け推進してゆきたい。

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きのオリジナル品種育成と栽培技術の確立

小課題名：早出しスイートコーンの鮮度保持技術と品質評価

担当者名：對木啓介、赤池一彦、小澤明子

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|--|
| 1 研究目標の達成度 | 4 / 5 | 特段の成果は見あたらないが、非破壊簡易分析で成果情報を得たことを評価する。事前入力 は1回のみで品種間差も問題ないとのことで、 実用化を視野に改善を進めると良い。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 3 / 5 | 皮を剥かないと糖度測定ができないよう では実用性は難しい。 |
| 3 研究の発展性 | 4 / 5 | 包装の低価格化も困難かと思われ、品温管理 と組み合わせる必要がある。品質評価の方法を 違う角度から考える必要がある。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 4 / 5 | ブランド化への基礎研究として評価できる。 |
| 総合評価 | 3 / 5 | スイートコーンの山梨ブランド化の大きな 戦略の中で、求められるいろいろな技術の基礎 にとりかかったと思われるので、さらに応用 に向けて努力する必要がある。産地間競争の激 しい中、更なる技術の確立が必要と思われる ので、農家・JAなどと協力して品質の現実的 評価基準の設定が必要と思われる。 |

「注」 評価点の目安

| | | | | | |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

スイートコーンは本県の主要な野菜品目であるので、今回得られた基礎データをもとに特選農産物への認証などについて検討し、有利販売につなげてゆきたい。また、鮮度保持技術については、東京市場に近い立地条件を活かす上からも重要であるので、包装資材、温度、輸送手段と組み合わせ、総合的に検討してゆきたい。

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：露地抑制ナスの「側枝更新剪定法」に適した栽培技術の確立

担当者名：赤池一彦、小澤明子、長坂克彦

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|--|
| 1 研究目標の達成度 | 5 / 5 | 上物収量の向上と肥料の適正施用を目途に側枝更新選定技術の普及版を確立し、目標達成度は高い。しかし、溶脱量評価ではライシメータ試験に反復がないため、ポット試験などで補完する必要がある。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 4 / 5 | 仕立て本数6本の時の作業時間や収益性の向上に関わる知見が技術の普及上重要で、農家の評価を得るための情報交換等が大切である。全層施肥で収量増が確認されたが、今後、減肥も検討されたい。 |
| 3 研究の発展性 | 4 / 5 | スイートコーン残渣の鋤込みに関する研究は、減肥が可能と期待されるので、環境保全型農業として研究の継続が望ましい。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 4 / 5 | 複合経営のなかで新しい作付体系の提示がなされ、妥当である。 |
| 総合評価 | 5 / 5 | 複合経営の組み合わせ品目として期待される抑制ナスの栽培について、本県特有の技術として「かいてき仕立て栽培法」を確立した評価は高い。収益アップにつながる技術であるから、是非に普及につなげていただきたい。 |

「注」 評価点の目安

| | | | | | |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

複合経営の一環として本技術が抑制ナス栽培に積極的に導入できるよう、時期毎の作業性など夏秋栽培と比べた長所を周知していきたい。また、ナス前作を考慮した減肥の提案など、環境に配慮した栽培法についてさらに改善していきたい。

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名 原油・資材費高騰に対応した低コスト生産技術の確立

大課題名：原油・資材費高騰に対応した低コスト生産技術の確立

小課題名：山梨県に適した低コストな水稻疎植栽培法の確立

担当者名：石井利幸、上野直也

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|--|
| 1 研究目標の達成度 | 5 / 5 | 県下のほぼ全域で適用できる省力・低コストの水稻栽培技術を確立し、達成度は高い。手植え時代の利点を、稚苗で追求している様で、新しい方向性を出したと評価する。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 4 / 5 | 3年間の試験であり、普及のためには品質や倒伏等農家のもつ不安についても具体的説明が大切である。 |
| 3 研究の発展性 | 4 / 5 | 低温年での分けつ不足対策や追肥等の研究が必要である。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 4 / 5 | 温暖化の中で、作物の栽培マニュアルの見直しは重要であり、的確な課題である。 |
| 総合評価 | 5 / 5 | 高齢化や小規模農家が多い中、育苗、移植等の作業時間の短縮及び資材費の削減など農家ニーズである省力・低コストに対応した技術を確立した。迅速な普及が望まれるが、高冷地や低温年での対応策等の説明が重要である。今後は株間をもっと広くするなど、超疎植を視野に入れた研究課題に挑戦してもらいたい。 |

「注」 評価点の目安

| | | | | | |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

品質や倒伏には影響はないが、農家が不安を持たないよう関係組織と連携し、補足資料を使いながら丁寧に対応していきたい。高冷地への対応は止め水による水管理などを指導し、減収、品質低下が起こらないよう努めていく。超疎植栽培及び低温年における対応策は普及組織と連携しながら可能性を含め今後検討していきたい。

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：有機性資源の有効利用と土壌養分管理技術の確立

小課題名：有機物施用土壌の適正な養分管理技術

担当者名：長坂克彦、石井利幸、山崎修平、望月久美子、上野直也、本田 剛

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|--|
| 1 研究目標の達成度 | 5 / 5 | 県下各地域の圃場における土壌化学性を調べ施肥対策を提言した。また、堆肥など有機物からのリン酸、加里の供給量を明らかにした。目標の達成度は高い。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 5 / 5 | 土壌養分バランスを正常化することで、農家が得る収益上のメリットを提示することが、この成果の普及につながる。また、用語の分かりやすい説明が必要である。 |
| 3 研究の発展性 | 5 / 5 | 有機農業を展開する上で、有用な知見になるとともに慣行栽培の施肥基準の改訂に生かされることを期待する。研究を継続して、成果の信頼性を高めてもらいたい。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 4 / 5 | 連用試験の継続と結果の活用も重要である。 |
| 総合評価 | 5 / 5 | 化学肥料価格が高くなる中で、堆肥等の有機物の肥効特性を明らかにした成果は評価できる。この知見の普及を図るためにも各地域や各作目での検証試験が期待される。また、研究成果の全国へ向けての発信が望まれる。今まで、堆肥等が使われながらも、肥料としての数値的な裏づけがなかったので、この成果は画期的な成果だと思われる。 |

「注」 評価点の目安

| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
|----|----|------|----|------|----|
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

土壌養分のバランスの実態を農家に周知させるとともに、普及組織と協力しながら施肥改善実証圃などで検証を行い、収益性などについて情報提供する。また、有機農業の場合においても有機物連用による養分の過剰蓄積が見られるので、現在試験中である「有機栽培における土壌管理技術」の課題の中で対策を検討したい。

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：環境保全型農業の確立

小課題名：適正施肥支援システムの開発

担当者名：山崎修平、長坂克彦、望月久美子、本田 剛

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|--|
| 1 研究目標の達成度 | 4 / 5 | 土壌診断と次作の適正施肥量の算出を組み合わせたシステムを確立した達成度は高い。また、システムを成果情報としてまとめた。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 4 / 5 | 確立したシステムをいろいろな地域や作目で活用し、品質や収量が確保されることを検証することが普及につながる。また、高齢化した農家にわかり易い情報にして普及することが必要である。土壌図の利用では著作権の確認が必要である。 |
| 3 研究の発展性 | 5 / 5 | 基礎となる資材などデータベースの更新が必須である。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 4 / 5 | 妥当である。 |
| 総合評価 | 4 / 5 | 課題の目標を達成したことは高く評価されるが、各種圃場及び作目について、土壌分析を含めシステムの有用性が検証される必要がある。データの更新についても配慮する必要がある。また、インターネットでの利用も検討して欲しい。 |

「注」 評価点の目安

| | | | | | |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

生産現場においてシステムの有用性を検証しながら、新しい資材や情報を随時データベースに取り込むとともに、今後とも指導機関・生産者などからの意見・要望を取り入れてより使いやすいシステムに更新していきたい。また、広く生産者がシステムを利用できるようにインターネットでの提供も検討したい。

<様式6> 総合農業技術センター試験・研究課題事後評価表

総合農業技術センター課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：野菜・花きの栽培改良

小課題名：秋咲きエリカの安定生産技術の確立（H18～20）

担当者名：外川高雄

| 評価項目 | 評価点 | 指摘事項 |
|-----------------------|-------|--|
| 1 研究目標の達成度 | 3 / 5 | 価格情勢の変化で研究自体の方向性の変更は止む得ないと考える。しかし、株令、施肥量と開花数の関係において知見を得た。 |
| 2 成果の有用性 (普及性、波及性) | 2 / 5 | 花き類の多品目化のなかで、今後関係方面で利用されることを期待する。 |
| 3 研究の発展性 | 3 / 5 | 光条件など今後、情勢次第では課題化など再検討が望まれる。 |
| 4 研究課題選定の妥当性 | 3 / 5 | 市場ニーズを踏まえた課題化であり、ニーズの変動とともに、研究方向の機動的対応も重要である。 |
| 総合評価 | 3 / 5 | 栽培農家より開花が遅れた理由として光条件をあげており、エリカのブランド化のためには開花時期の調節などの研究の継続が望ましい。 |

「注」 評価点の目安

| | | | | | |
|----|----|------|----|------|----|
| 評価 | 高い | やや高い | 普通 | やや低い | 低い |
| 点数 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

試験研究機関の処置

本試験により基礎的データは得られたが、今後市況が回復した場合の生産現場からの要望に対し、本成果を速やかに普及するとともに、開花調整に関与する光条件の解明などについて検討したい。